

- 平成23年度第2回技術研修会-----①
- 一般社団法人「東京都計量協会」-----①
- 都計コンホームページ更新のご案内-----②
- 第1回見学会の案内-----②
- 会員のひろば-----②

計量の安心・安全・信頼を推進する
計量器コンサルタント

2011年度第2回技術研修会 「マイクロメータ進化の歴史と測定工具の将来像」

2011年度第2回技術研修会を、6月9日の午後、東京都計量検定所2階会議室で、25名の受講者を集めて開いた。

今回は、株式会社ミツヨの畝修造(うね・しゅうぞう)氏が「マイクロメータ進化の歴史と測定工具の将来像」と題して講演。身近な測定工具であるマイクロメータについて、簡単な歴史から、改良の変遷とその背景、現在の最新情報を紹介し、今後の測定工具の方向性を考察した。

工業製品の完成に向けて、現場計測のツールとしてなくてはならないマイクロメータは、近年情報の一元化や電子化にともない、デジタルが主流となっているが、最近は、さらなる耐久性、使いやすさ、経済性が追求され、小型化、バッテリーの長寿命化、防水機構化、低価格化が進んでいる。

ミツヨは、1937年マイクロメータの国産化に成功、71年には、機械式のカウンタ付マイクロメータの生産を開始、79年には液晶表示付のデジタル式マイクロメータを生産する。

さらに2003年には、保護等級IP65を実現した革新的なクーラントタイプのデジタル式マイクロメータを開発した。

07年、一般的なマイクロメータのねじピッチが0.5mmなのに対し、ねじピッチ2.0mmを採用した次世代形のデジタル式マイクロメータを開発。シンプル回転でスピンドルが2.0mm移動するクイック測定を実現し、ワークへのアプローチ時間、総測定時間を削減している。

測定工具の今後の方向性について、畝氏は「より高精度に、安価に、使いやすく、高機能に、長寿命へ」とさらに加速すると予測。職場の高齢化、女性進出、情報化の進化が、社会的な背景としてであると述べた。

会場には畝氏が所蔵する歴史的なマイクロメータのコレクションも展示され、受講者は実際に手に触れて動かしていた。

写真：左(講師、畝氏)：中央(受講中)：右(歴代の製品を前に)



都計協の定時総会 一般社団法人に移行後、初めての開催

一社)東京都計量協会は5月27日画、東京都千代田区の主婦会館プラザエフで一般社団法人移行後第1回の定時総会を開催、新たな一歩を踏み出した。

総会では、旧法人における2010年度の事業活動、収支決算が、満場一致の承認を得た。また2011年度の事業計画、収支予算が発表され、資産、事業が新法人に引き継がれた。

2011年度より新たな事業として東京都計量検定所の業務であるタクシーメーター装置検査の一部補助業務を受託し、指定定期検査などの機関の業務に加え、竹芝検査場の業務の多くの部分を協会が担うことになったことが報告された。また1月の総会で移行時理事となっていた旧法人理事は、09年選任時の任期が今総会で満了となるため、新たな理事が選任された。今回は新任理事3名、監事1名を加え理事23名、監事3名体制となった。正副会長、専務理事の役職については全員留任とした。

議事終了後、東京都計量検定所の寺井勝所長より祝辞があり、新法人としての第1回総会が無事終了した。

出席会員は44名。

来賓として、東京都計量検定所寺井勝所長、同島崎勉副所長、清水幸良検定課長、花日本計量振興協会河住春樹専務理事、花日本計量機器工業連合会重森明氏、東京科学機器協会矢澤英人会長らの臨席があった。総会終了後、会場を移して懇親パーティーをひらき、新法人の船出を祝った。



新会長：清宮貞雄氏

「出前計量教室」
申込み受付中。締切りは6月末

今年度の「出前計量教室」の申込み受付が行われている。これは、東京都計量検定所と東京計量士会及び(社)東京都計量協会、日本硝子計量器工業協同組合が連携協力し、東京都内の小学校に出向き理科の授業で寒暖計や棒はかりを工作する体験学習を行うものである。当協会では、この事業に積極的に参画し、講師補助の応援要請を受け有志を募り参加している。各小学校からの申込みは6月末に締切られ、7月中旬には実施校が決定する。

協会HPに新コンテンツ 「都計コン座談会」を新規にUP

協会ホームページに新しいコンテンツを盛り込みました。日本計量新報の2866号～2873号まで計6回掲載された「東京都計量器コンサルタント協会座談会」の内容を新たにアップいたしました。その他にも、「リブラ」にて掲載中の「会員企業紹介」「計量コラム」も近日アップ予定です。「リブラ」同様、協会ホームページもぜひ閲覧下さい。

* 協会HP URL: <http://www.t-kcon.org/>

平成23年度第1回見学のご案内
日清オイリオ/住友電気工業

今回は、日清オイリオ横浜事業所と住友電気工業横浜製作所の2事業所の見学会を実施する。食品加工分野と光ファイバー製造分野でどちらも先端的な製品技術を掲げる事業所であり大変に興味深い見学会だ。詳細は以下の通り。

開催日:平成23年7月13日(水)
集合場所:東京都計量検定所
見学スケジュール
AM09:00 集合 (東京都計量検定所構内)
09:15 出発
10:30 日清オイリオ横浜磯子事業所着 施設見学
昼食・休憩・移動
14:00 住友電気工業横浜製作所着 施設見学
16:00 見学終了 帰途へ
17:30 検定所着 解散
会費:未定 昼食代各自負担

参加ご希望の方は、当協会事務局で受付けている。
申込み締切日:7月8日(金)厳守!

・会・員・の・広・場・

会員企業紹介

共栄衡器株式会社

設立年:昭和39年2月 / 代表者:大森健次
所在地:東京都足立区千住河原町45-6
URL: <http://www.kyoei-koki.com>

会社経歴:

昭和39年2月計量器専門商社として足立区千住に共栄衡器営業所(個人事業)を開業しました。昭和45年7月法人組織共栄衡器株式会社を設立し、同年9月墨田区八広に墨田営業所を開設しました。

昭和63年10月本社ビルを建設し、同月墨田営業所は本社営業部へ統合しサービス業務強化の為墨田サービス工場とし発足しました。

平成7年12月合理化の一環として墨田サービス工場を本社に統合し、社会のニーズに対応すべく業務内容の充実をはかり、国内を主要とし遠く海外へも供給しております。あらゆる産業社会に寄与することを目的に、かつ健全でより良い計量、計測機器を低廉にて奉仕供給するかわらサービス業務及びコンサルタント業務にも力を注いでいます。更には新製品の開発等にも積極的に取組みメーカーへ協力し、信頼の向上に最善の努力と日夜研鑽を重ね邁進し現在に至っております。

業務内容:

計量システム、計量・計測機器、健康機器、ラベラー機、その他関連機器、販売修理、代行検査業務、保守管理業務、コンサルタント業務、ISO対応計量管理業務

取扱品目:

電子式各種大型・小型計量機器(プリンタースケール)、計量システム機器、特殊大型計量機(トラックスケール、ホップスケール)その他、液体自動充填計量機、粉体自動計量機(パッカースケール)クレーンスケール、電子式カウンティングスケール、工業用一般計量機、(大型小型規格台秤)、電子式計量器機、商業用一般計量機(ラベルプリンター)、料金秤、自動定額値付機(ラベルプリンタースケール)、包装機、関連機器、温度計・湿度計、健康機器、巻尺、ノギス、マイクロメータ、ゲージ、その他計量・計測・測定機器等各種

計量コラム

「放射線の測定」

私たち計量人が知ってるつもりが?実は知らなかった。そんな用語を調べてみました。今回は、「放射線の測定」について単位のお話です。

福島での原発事故から、急に測定に深刻さが増してきました。そもそも放射能とは、放射線を出す能力のことで、放射能を持つ物質を放射性物質と呼びます。放射線は人間の五感では感じることが出来ないので測定器を用いて検出や測定を行います。放射線は大きく分けて粒子線と電磁波に分類され、その透過力は種類によって異なります。放射能を表す単位は「ベクレル:Bq」が用いられ放射線の量を表す単位は「グレイ:Gy」「シーベルト:Sv」があります。古くは「レントゲン」や「ラド」「レム」と言う単位がありました。「ベクレル:Bq」は、1秒間に放射線を出す量を「グレイ:Gy」は吸収した放射線のエネルギーの総量(吸収線量)を表すSI組立単位です。近頃よく耳にするのが「シーベルト:Sv」で、放射線防護の分野で使われています。人体が吸収(被曝)した放射線の総量を数値化したものです。単位時間当たりの被曝線量を表す「シーベルト:Sv/h」とは単位が違うので比較する際は単位を揃える必要があります。また、1時間の被曝線量を8760倍(24×365)すると年間の被曝線量に換算されます。現在、日本の年間被曝限度量は20mSvですが、これを1時間あたりに換算すると2.28μSvとなります。報道等で使われているシーベルトは毎時が省略されていることがあるので注意が必要です。また、放射線を測定する場合は、その線種と目的に応じて適切な機器を選定し正しく測定することが肝要です。

(参考)

主な放射線種:α線、β線、γ線、X線、中性子線
主な放射性物質:ウラン、プルトニウム、トリウム、セシウム、ヨウ素、ストロンチウム等

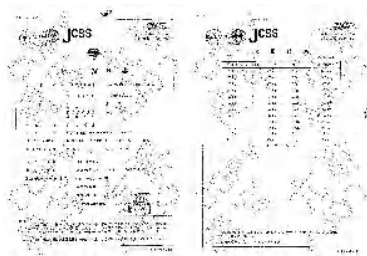


写真:左(大森健次氏):中央(本社ビル)
:右(社内分銅のJCSS校正証明書)